

2021年度 緑地管理研究会 開催報告

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
総務部 企画課

当協会では、水田畦畔、農道等の農耕地周辺や、道路法面、鉄道沿線などの場所を対象に、それぞれの管理目的に応じ、植生を枯らすことなく雑草の伸長を長期間抑制することを目的とした抑草剤の開発・利用に関する試験研究に取り組んでいる。平成19（2007）年度からは、緑地管理分野における抑草剤を主体とした薬剤の効率的な利用を目的として、鉄道、高速道路、電力会社等ユーザー各社による現地試験が実施され、その試験結果の報告などを行う研究会を毎年開催してきたが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のためやむなく開催中止となった。今年度も長引くコロナ禍の中、開催が危ぶまれたが、感染防止対策として、初のリモート会議形式（Zoom使用）で開催した。今回は現地見学会の無い講演会のみとなったが、参加費無料で参加旅費も不要のリモート開催としたこともあり、参加者総数は例年の倍を超える過去最高の251名（農薬会社等関係者125名、高速道路・電力・河川等ユーザー関係者73名、農研機構・自治体・大学関係者23名、植調協会関係者30名）となった。

また、今回参加された高速道路関係者の一部の方々は、参加証明書を受領することにより、民間の建設コンサルタント資格における継続教育制度CPD（Continuing Professional Development）の登録継続に必要なポイントを取得されたことを付け加えておく。

講演1. 緑地管理用薬剤の効果的で安全な利用方法について

①緑地管理用除草剤・抑草剤の効果的な使用方法（植調協会 山木義賢氏）

②緑地管理用農薬を安全に使用するための注意点（緑の安全推進協会委嘱講師 森島靖雄氏）

午前中は緑地管理用薬剤を使用する上で重要なポイントについて、両講師から講義が行われた。常連の参加者にとってはほとんどが既知の内容であったが、ユーザー会社の方からは、初参加者にとってこのような基本的な使用方法の講義が大切であるとの話を伺って今回も実施することとした。その結果、今回は半数を超える参加者が初参加となり、参加者の幅が大きく広がったと言えるだろう。

講演2. 各利用場面における課題紹介

①沖縄の侵略的外来植物の現状と課題／主にギンネムとツルヒヨドリについて（株式会社南西環境研究所 徳丸慶太郎氏）

②高速道路関係その1（中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社 高橋竜一氏）

③高速道路関係その2（西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社 石黒 美穂氏）

④電力関係（中部電力株式会社 津田その子氏）

⑤河川関係（公益財団法人 河川財団 山本嘉昭氏）

午後は、各現場で問題となっている雑草や抱えている課題、その解決方法の検討状況などを現場で撮影したビデオ映像なども織り交ぜながら、ユーザー各社から紹介いただいた。沖縄からは、緑地帯で繁茂しているギンネムに対する防除対策マニュアル作成のための試験や特定外来生物に指定されたツルヒヨドリの発生状況についての紹介があった。高速道路関係では、大型道路法面における薬剤を用いた雑草木の繁茂を抑制する試験の様子や、イタドリ駆除試験の様子、またGISを利用した分布状況調査結果の紹介もあった。電力関係では、未解決のクズ対策の現状について、電柱や鉄塔での駆除の様子を写したビデオ映像も交えて紹介され、河川関係では、平成2年の国土交通省の事務連絡により薬剤が使えないという河川の特異性を説明しつつ、渡良瀬川で行っている取組みが紹介された。今後は、このような河川特有の条件を考慮した薬剤および使用方法の開発が望まれる。

講演3. 薬剤紹介

①株式会社ニチノ緑化 ②石原バイオサイエンス株式会社 ③株式会社理研グリーン ④日産化学株式会社 ⑤バイエルクロップサイエンス株式会社 ⑥丸和バイオケミカル株式会社 ⑦アグロカネショウ株式会社 ⑧ニチバン株式会社

続いて、上記8社から各社開発の緑地管理用薬剤の特徴や適正使用等に関するプレゼンテーションが行われた。

全体討議

今回はZoomのチャット機能を利用した結果、多くの質問・コメントが寄せられ、これらに対し、各講演者やコメントーターの浅井元朗氏（農研機構 植物防疫研究部門）からそれぞれ回答が行われた。また、沖縄のツルヒヨドリに対しては、選択性除草剤などを用いた更なる防除方法の検討が、高速道路では、クズに効果が高く、かつ樹木類にも登録があり、サクラなどの有用樹にも影響の少ない薬剤や、今回、法面の雑草木にマイルドに法面植生全体を抑制する薬剤が、電力関係では、つる植物に対し効果の高い薬剤や使用方法が、河川関係では、散布にかかる人件費なども考慮した低コスト化の検討や、タケなどの難防除雑草に対する効果の高い薬剤の提案が求められた。最後に浅井氏からは、散布の省力化（低水量化）や、難防除雑草を防除して管理しやすい植生に変えた上で安定的な管理を行う方法の開発が緑地管理場面における今後の重要な課題であることが示された。